

一人一人が基礎的な技能を身につけ、活用できる中学年のゲーム

—シュートプレルボールの実践を通して—

鳥取県倉吉市立北谷小学校 堀 良 一

1 主題設定の理由

ゲーム領域の学習において、ゴール型、ネット型、ベースボール型により運動の技能が違ってくるのは言うまでもない。中学年におけるネット型の技能として、ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に体を移動したりすること、いろいろな高さのボールを片手又は両手ではじく、打ち付けるなどして、相手のコートに返球することがあげられる。そして、単元を通して体の動きやボール操作の技能を身につけ、身につけた技能を発揮しゲームに生かすことがネット型ゲームの特性や魅力に触れることになる。

シュートプレルボールは、プレルボールの攻撃を簡素化したゲームで、相手にボールを返すとき、キャッチし、投げて攻撃するゲームである。弾んでいるボールに対して体を向けたり、前腕を用いて床にボールを打ち付けたりするなどの技能を高めやすい運動であり、習得した技能を生かしてゲームを楽しむことで、ネット型ゲームの特性や楽しさに触れることができると考える。

一人一人が基礎的な技能を身につけ、身につけた技能をゲームや試合に活用し、意欲的に学習に取り組むゲームの学習にしたいと考え、本研究主題を設定した。鳥取県中部小学校体育研究会では、このシュートプレルボールを琴浦町立以西小学校、北栄町立北条小学校、倉吉市立北谷小学校の3校で実践し、研究を深めた。

2 研究の視点

(1) 学習内容の明確化と学習過程の工夫

シュートプレルボールで身につけさせたい基礎的な技能や知識がある。その技能や知識、学習内容を明確にし、単元全体や1単位時間の学習を習得、活用・探究型を意識した学習にすることで、技能を身につけ思考・判断する力を育てることができると考える。

(2) 技能を習得するための効果的な指導

身につけさせたい技能を効果的に習得するための学習やミニゲームを工夫することで、より意欲的に技能を身につけることができると考える。また、用具やネットの高さなど用具の有効な活用によって、技能や体の動かし方の効果的指導ができると考える。

(3) 思考・判断する力を育てるための言語活動の充実

練習やミニゲームで見つけたフォーメーションや作戦を話し合ったり、体育日記に記入したりすることで思考・判断する力を育てられると考える。作戦ボードの活用により、作戦を視覚化し言語活動を促すことで、より思考・判断する力を育てられると考える。

3 研究の実際

(1) 学習内容の明確化と学習過程の工夫

① 学習内容の明確化

【技能】シュートプレルボールを楽しく行うための基本的なボール操作や簡単な動きを身につけることができる。

【思考・判断】規則を工夫したり、ネット型の特徴にあった攻め方を知り、簡単な作戦を立てたりする。

【態度】ゲームに進んで取り組むとともに、規則を守り勝敗を受け入れて仲よく運動しようとしたり、運動する場や用具の安全を確かめようとしたりする。

シュートプレルボールの単元目標を、上記の通り設定した。そこで、単元で身につけさせたい技能を「ねらった方向にボールを打つこと」や「適切にボールの落下点やボールの操作し

やすい位置に移動すること」、思考・判断を「ネット型の特徴に合った攻め方を知り、フォーメーションや簡単な作戦を立てること」、態度を「ゲームにかかわり合いながら進んで取り組むこと」とし、具体的な学習内容を設定し取り組んだ。

② 学習過程の工夫

単元全体を通して、基礎的な技能や知識を習得する学習とそれを基に活用・探究する学習とをバランスよく組み合わせた単元構成を考えた。1 単位時間の学習の前半にスキルアップゲームを位置づけて基礎的な技能や知識の習得を図り、後半は習得した技能・知識を活用してゲームを行うことで思考・判断する力を育てる流れとした。

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
主なねらい	学習の進め方を理解しよう	ねらったところにプレルしよう		みんなでボールをつないでゲームを楽しもう			チームの力を合わせて攻撃をし、ゲームを楽しもう			
核となる学習内容	・学習の進め方 ・準備、片付けの仕方	・ねらった方向にボールを打つ ・体の向き ・腕の振り ・打ちつける場所	・壁打ち ・的当て ・的当て(距離を伸ばして)	・ボールの落下点やボールを操作しやすい位置への体の移動 ・相手にプレルするときの体の向き ・打ちつける場所 ・ラリーが続くためのフォーメーション	・トス壁打ち ・ネットをはさんでの的当て	・トス壁打ち ・ネットをはさんでの的当て	・ペアパスゲーム ・チームパスゲーム	・ペアパスゲーム ・チームパスゲーム	・チームパスゲーム ・チームパスゲーム	・チームパスゲーム ・チームパスゲーム
学習活動 【わかる・できる・ためす】／【いかす・チャレンジする】	オリエンテーション ・学習の見通しを持つ ・準備の仕方 ・試しの運動 ・片付けの仕方	スキルアップゲーム		プレシーズンマッチ ～ゲームでスキルアップ～			Pリーグ開幕！ ～優勝カップはどのチームに!?～ 3対3でリーグ戦をする。 相手が捕りにくいボールを返してゲームをする。			
		壁打ち 的当て	壁打ち 的当て(距離を伸ばして)	トス壁打ち ネットをはさんでの的当て	トス壁打ち ネットをはさんでの的当て	ペアパスゲーム チームパスゲーム	ペアパスゲーム チームパスゲーム	チームパスゲーム チームパスゲーム	チームパスゲーム チームパスゲーム	
		2人組でフリーコートラリー	チームでフリーコートラリー	ラリーゲーム	ラリーゲーム					
		片付け 繰り返し								

試合では、レシーブしたボールをうまくつないで攻撃しやすい形を作ったり、攻撃の作戦を立てたりすることで思考・判断する力を育てたい。そのため、攻撃技能の簡素化を図り、シュートで攻撃を行うシュートプレルボールで実践した。

(2) 技能を習得するための効果的な指導

児童の技能習得を図るため、スキルアップゲームを行った。

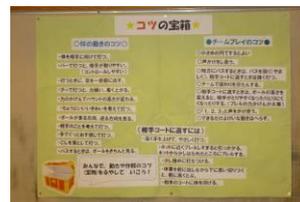
学習中に見つけた運動のこつや体の動かし方を共有するため、学習中や振り返りの時に発表する場を設けた。児童は、手の動き、体の向き、目の向き、足の出し方など、いろいろな運動のこつを見つけ発言していた。また、学習で各自が気付いたこつを体育日記に記入し言葉で表現することで、運動の理解(わかる)につながった。体育日記でこつや動きを言語化することは、技能の理解を深めたり、技能を習得したりするために有効であった。体育日記は、学習中に発表できなかった児童の気付きを教師が見取ることができ、次時の学習に生かすこともできた。

児童から出てきたプレルするこつや体の動かし方などは掲示し、児童が技能を習得するための手がかりとなるようにした。

① ねらった方向にボールを打つ技能を習得するための学習

(ア) 1人での壁打ち、トス打ち

壁に向かってボールをプレルする壁打ち、トス打ちはボールを



プレルする位置、足を踏み出す感覚、腕の振り方、ボールをバウンドさせる位置など、基礎的な技能を身につけるために有効であった。投げ上げてプレルする壁打ちに対して、床にバウンドさせてプレルするトス打ちでは、「1・2」と声を出してプレルすることで動いているボールをプレルするタイミングをつかむことができた。



(イ) 2人組での的あて

相手にトスしてもらい形でプレルするの的当てでは、トス壁打ちで行った「1・2」の声かけを活用し、2人がタイミングを合わせてプレルしていた。

(ウ) チームでネットをはさんでの的あて

ネットをはさむためボールを高く弾ませるようにプレルすることやネットから離れた位置でプレルすることに気付いていた。的に当てるため、児童は力加減を考えてプレルしていた。なかなか当たらないためゆっくりプレルする姿も見られ、的に当たったら1点、的が倒れたら3点という工夫をした学校もあった。



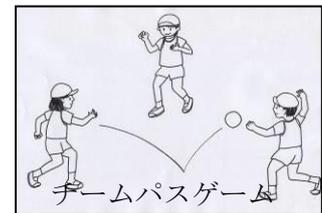
② ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に体を移動する技能を習得するための学習

(ア) 2人組でのペアパスゲーム

2人組でのパスは、相手からのパスに合わせて動く必要がある。ボールの速さや動きに合わせて自分の位置を移動し、相手にとりやすいボールをプレルする技能の習得に役立った。

(イ) チームパスゲーム

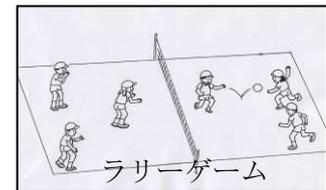
ペアのパスゲームで身につけた技能に合わせ、相手にとりやすいボールをパスするために、体の向きや足の向きを相手に向けるというコツを見つけた。他の児童のこつを聞き、体の動かし方を身につけた児童もいた。



③ ねらった方向にボールを打つ技能やボールを操作しやすい位置に体を移動する技能を活用・探究しながら動きをさらに高める学習

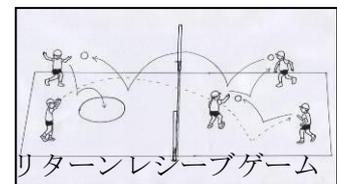
(ア) チーム対戦によるラリーゲーム

ラリーゲームでは、相手チームと長くラリーが続くゲームと、相手の取りにくいところにシュートするゲームを行った。攻撃につながるパスのつなぎ方やボールをプレルしない児童の動き方を考えさせると、三角形の形になって動くことよいに気づき、チームのフォーメーションも変化した。



(イ) リターンレシーブゲーム

リターンレシーブゲームは、レシーブしたボールをうまくつないで攻撃しやすい形にするゲームとして取り入れた。ラリーゲームに比べるとゲーム性が低く、児童があまり興味を示さなかったため、レシーブをつなぐ方法として扱いラリーゲームを多く取り入れて実践した。



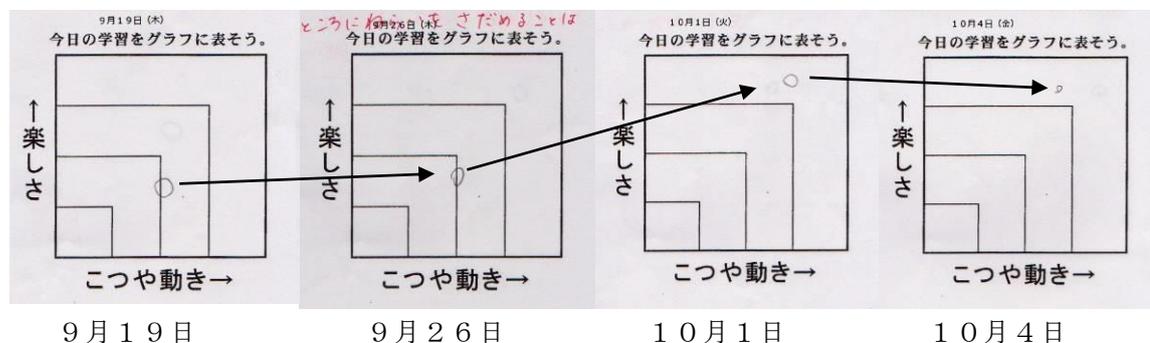
④ 用具・ネットの工夫について

今回、ソフトバレーボール、ライトドッジボール、ゴムボールを使用し実践した。

ソフトバレーボールは、柔らかいため児童は恐怖心が少なく、弾みも少ないため基礎的な技能を習得する時に有効であった。ゲームを行う時には、ボールの弾みが少ないためラリーは長く続いたが、児童の動きがあまり活発にはならなかった。ライトドッジボールを扱った実践では、ボールの弾みが大きくボールに対して素早く動く必要があり、児童の動きが活動的になった。

ネットの高さを変えた実践も行った。ネットの高さにより、ネットからプレルする距離やプレルする力の強さなどを児童は身につけていた。

以上のように、こつや動きを共有化しながら身につけさせたい技能の習得を図る指導を行うことで運動技能を身につけるとともに、楽しさも感じた児童が多くいた。下の図は、体育日記の中で実施したある児童の「楽しさとこつや動き」の自己評価表の結果である。学習の進捗によるカードの変化を見ると、始めは、「楽しさ」、「こつや動き」の自己評価は低かったが、運動のこつがわかったり、教え合ったりすることで運動ができるようになり、楽しさの評価もだんだん高くなっていったと考えられる。他の児童においても、技能が身につくに従って、右上に上がっていく様子が見られた。



(3) 思考・判断する力を育てるための言語活動の充実

児童は、習得した技能を活用して、ラリーゲームや試合でフォーメーションや攻撃の仕方などを考えていた。考えた作戦

をチームで振り返って話し合ったり、作戦で気付いたことを体育日記に記入したりして言語化することは、児童の理解を深めたり、次の作戦を考えたりすることに有効であった。学習中に発表できなかった児童の作戦の気付きを教師が見取ることができた。

作戦を話し合う時には作戦ボードを活用し、チームの作戦を視覚化することで、フォーメーションや攻撃の場所、攻撃の方向などをチーム内で話し合い考えていた。気付いた作戦や攻撃の仕方などを体育日記に記入させることで、児童の思考・判断を見取することもでき、作戦ボードと合わせて体育日記を活用することで効果があがった。

相手が後ろにいる時は、前らへんによわくしてシュートすること、前にいる時は、後ろらへんに強くシュートすることがわかりました。



4 成果と課題

【成果】

- 身につけさせたい力や学習内容を明確にし、習得と活用・探究型の学習過程を工夫することで、単元で身につけさせたい技能を習得し、簡単な作戦や攻め方を考えることができた。児童に身につけさせたい技能を習得させ、簡単なゲームでその習得した技能を活用する流れとすることが有効であった。
- 運動のこつを共有化しながら技能を習得するためのスキルアップゲームを行うことで、ねらった方向にボールを打つことやボールの操作しやすい位置に移動してプレルすることなどの技能を習得することができた。技能を習得することで「できる喜び」を児童が実感し、学習意欲にもつながった。ボールやネットなど用具を工夫することで学習効果が変わってくるのがわかった。
- 話し合いや体育日記でチームの攻撃の方法や作戦を振り返ることや作戦ボードを使って作戦を視覚化することで、児童の思考・判断する力を育てることができた。

【課題】

- 今回の学習は、技能の習得を教師からの提示で行った。簡単なゲームから自分やチームの課題を見つけ、身につける技能を児童と共有し学習を展開していく方法（試しの運動→課題→習得・活用）も考えられる。今後も有効な学習の展開や指導について研究を深めていきたい。